

日時:20××年××月×日(▲)14:00~16:00(予定)  
晴れ時々曇り気温・天候:14~16°C・晴れ、時々曇り  
プログラム: 実習1回目  
参加人数:5名(導入編修了者:3名、スタッフ:2名)  
受け入れ先農家:〇〇農園(神奈川県〇〇町)  
特筆事項:〇〇農園の経営者である〇〇さんは、農スクールの20××年卒業生

もっと詳しく!

実施報告書  
~基礎編農家実習~  
by 農スクールスタッフ

## スケジュール

13:30: 農スクール事務所集合・出発  
14:00: 〇〇農園到着  
14:00—14:10: 移動  
14:10—14:25: 作業畑到着・挨拶・作業の説明  
14:25—15:45: キャベツの植え付け作業(1200苗)  
15:45—15:50: 作業終了・後片付け  
15:50—16:00: 移動  
16:05—16:20: アンケート、本日のワークシート記入・解散

本日は、〇〇さんの〇〇農園にて2時間ほどの実地研修を行いました。まず最初に、農スクール事務所に集合し、随行するスタッフと共に農家でお世話になる際に気をつけることの確認を行いました。「挨拶を大きな声で」「できるだけ畑ではてきぱきと動く」「率先した行動」など、10回に及ぶ導入編プログラムで少しずつ身につけた能力です。こうした研修プログラムにおいて身につけた能力を、実際の現場で活かすレベルに持っていくことは一朝一夕ではできませんが、こうしたこまめなチェックを怠らず続けることが大切であると感じます。

〇〇農園に到着後、〇〇さんに挨拶を行い、本日の作業の説明を受けます。今回は、①キャベツ苗をポットから取り出す(写真1,2)、②畑に敷いてあるマルチに30cm間隔で2列、指1本分の穴を開け、その周辺にキャベツ苗を配給する(写真3,4)、③マルチにキャベツ苗を植える、という3つの作業になります。キャベツ苗は全部でおよそ1200苗であり、①、②、③を反復して行っていきます。

導入編では、2時間のプログラムの中で様々な作業を行いますので、このように反復作業をおよそ2時間続ける作業は初めての経験となります。また、①、②、③の作業は同時並行的に行うので、どの工程が現在足りてなく、自分がどの作業を行えば良いのかという判断力も随時求められるものでした。

写真1



写真2



写真3



写真4



作業は結果として、1時間30分ほどに及びましたが、全体を通して③のキャベツの苗植えを、みなさん熱心に行われていました。初め、〇〇さんのお手本を見た時は、手捌きが早く、また実際にやってみると〇〇さんがやって見せたようにスムーズにはいきませんが、何本か植えていくと、それぞれがコツを掴んだのか、作業ペースも上がり、苗植えに取り組んでいました。また、終了時までそれぞれのペースを大きく崩すことなく、反復して行うことができていました。基本的に中腰体勢、低姿勢で行う作業であり、体力と忍耐力がある程度必要である作業を、その人にとっての最適なペースで90分間継続できたというポイントは、一つの成果です。また、キャベツの苗植えは決して難しい技術ではありませんが、反復実践を通してそれぞれがその技術を身につけることができたことも、自信につながる良い成果だと感じます。

次回以降も、様々な農作業を経験することになると思いますが、その度にそのような成果を得続けることが重要です。一方で、①、②といった苗植えと同時並行的に行う作業の進み具合を確認しながら、随時そちらに手を回すといった判断をしたり行動をとったりすることは、今後何回か実習をする中で身につけていきたい力だと感じます。また、農家さんが次に何をしようとしているのか、なにを求めているのか先読みをして、率先して行動する力も今後伸ばしていきたいところです。

何はともあれ、実習1回目が無事終わり、受講生が実践への第一歩をふみだせたこと、いくつかの成果を得られたことはよかったことです。「できたこと」があるからこそ、「次にできるようになりたいこと」がわかってきます。次回以降も「積み重ね」を大切に着実にステップを踏んでいきましょう。このような実習を、様々な農家さんの元で行わせていただけるからこそ、受講生が幅広い農業の形を学ぶことができ、自分にあった形を考え、イメージできるようになります。また次回、どのような学びや成果を受講生たちが得ることができるのか楽しみです。